

第130回化石研究会例会講演抄録

(2008年11月22日, 兵庫県立人と自然の博物館にて開催)

シンポジウム

「日本の陸生脊椎動物化石産出層」

S 1 下部白亜系篠山層群の脊椎動物化石群と堆積相

三枝春生 (兵庫県立人と自然の博物館)
田中里志 (京都教育大学)

下部白亜系篠山層群下部層からは, 近年脊椎動物化石を産出する地点が二ヶ所発見された。丹波市山南町では, 基盤的ティタノサウルス形類に属すると考えられる竜脚類が発掘中である。この竜脚類の遺体は氾濫原堆積物と解釈される地層から発見され, 地表での遺体の分解過程が保存されているらしい。篠山市内で発見された二番目の地点からは, 哺乳類, 有鱗類などの小型脊椎動物化石が同じく氾濫原堆積物と考えられる赤色の泥岩層から産出した。単離したものが大部分だが, 一部関節状態のものもあり, 長距離の運搬は考えにくい。

S 2 熊本県に分布する上部白亜系御船層群の脊椎動物化石と堆積環境

池上直樹 (御船町恐竜博物館)

上部白亜系御船層群上部層は, 多様な脊椎動物化石を産出する。化石層 (ボンベッド) はいくつかの堆積相に認められ, それぞれの化石層は, 堆積相から推定される堆積場に調和的な産状を示していた。自然堤防~氾濫原堆積物と解釈される化石層は, 水棲~半水棲の脊椎動物化石の割合が低く, 単一の分類群が卓越する産状を呈し, 河床残留堆積物に発達する小型脊椎動物化石層では, 分類群構成・化石の破損状態・偽礫の存在から, 再堆積による選別と集中が示唆された。

S 3 岩手県久慈市の上部白亜系久慈層群国丹層より発見された陸生脊椎動物

平山 廉 (早稲田大学・国際教養)
蘭田哲平 (茨城大学・理工)
佐々木和久 (久慈琥珀博物館)

2008年7月から8月にかけて岩手県久慈市内の上部白亜系久慈層群の国丹層基底より (カメ目潜頸類アドクス科) のほぼ完全な甲羅部分を採集した。縁鱗の発達が著しく, 肋板の中程にまで達するなど既知の *Adocus* には見られない派生形質があり, 当該標本は未知の種に属する可能性がある。他にも, ナンシュンケリス科のカメ類などの脊椎動物化石が採集されている。

S 4 古第三系神戸層群の脊椎動物化石群と堆積相

三枝春生 (兵庫県立人と自然の博物館)
田中里志 (京都教育大学)

古第三系神戸層群からは三種の哺乳類, *Zaisanamynodon* sp., *Bothriodon sandaensis*, *Hyrachuus* sp. が三ヶ所から発見されている。*Zaisanamynodon* sp. の部分骨格は氾濫原堆積物と考えられる泥岩層より発掘された。3体分の骨格が発見されたが, いずれも長距離運搬されずに地表で長期にわたる分解を受けた痕跡が見られる。*Bothriodon sandaensis*, *Hyrachuus* sp. は古土壌中のノジュールより発見された。

S 5 島根県松江市の中新統古浦層より発見
された陸生脊椎動物

河野重範 (島根大学)
平山 廉 (早稲田大学)
藺田哲平 (茨城大学)
高橋亮雄 (琉球大学)
仲谷英夫 (鹿児島大学)
酒井哲弥 (島根大学)
高井正成 (京都大学)
萩野慎太郎 (京都大学)
甲能直樹 (国立科学博物館)
高桑祐司 (群馬県立自然史博物館)
青木良輔 (横須賀市)

松江市美保関町には下部中新統古浦層が広く分布している。古浦層は主に汽水～淡水域の湖沼環境で堆積したとされ、しばしば軟体動物化石を伴う。2006年に古浦層から初めてワニ類の足跡化石が、2008年には大型偶蹄類足跡化石が発見された(河野ほか, 2006; 2008)。2007年夏以降、3回の発掘調査を行ない、多数のカメ類骨格化石を採取し、少数ながらワニ類骨格化石、大型げっ歯類臼歯化石、小型偶蹄類臼歯および下顎骨化石を採取した。今後、これらの産出化石の分類学的検討が進むことによって、当時の大陸縁辺部の古脊椎動物相の一端が明らかになることが期待される。